



“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

《“社会を明るくする運動”とは》

すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。毎年7月を強調月間として全国で展開されています。

7月8日(日)中央大会「区民のつどい」を開催しました！

プログラム

- 第一部** セレモニー
作文コンテスト表彰式
推進委員長賞・常任委員長賞作品発表
- 第二部** 音楽会
出演団体 大正大学 ジャズ研究会
大正大学 雅楽倶楽部



表彰式(小学生の部)

小学生の部

★ ★
推進委員長賞

命の重さ

目白小学校
6年生

おおしま ゆい か
大島 唯花さん



私は、命について真剣に考えさせられたきっかけは今までに二回だけあります。

一度目は、私が幼稚園の年長だった時、妹が生まれる瞬間に立ち会ったことです。お母さんのおなかでどんどん大きくなって話しかけながらでるとそれに答えるようにポコポコと動いていて、本当にそこに新しい命があるということがすごく不思議だったのを、覚えています。生まれてくるまで、毎日たくさん話しかけたり、食事に気をつけたり、かぜをひかないようにしたり、ころんでおなかをばつけないようにしたり、家族みんなでおなかの中にいるたった一つの命を大切に守りながら長い時間をかけて妹は生まれてきました。その妹の泣く声を聞きながら一番最初にだっこした瞬間、すごく温かくて小さいのに、ずっしりと重くて、私はあの時ひざの上で泣いている妹に負けないう泣きました。何であんなに泣いていたのか、今思い返しても、はっきりとした気持ちは分からないけれど、うれしいと思う気持ちよりも、命に対する重さを感じたからだと思います。その経験をしてから、みんな平等にお母さんのおなかから命がスタートして大切に守られながら長い時間をかけて生まれてくるのに色々な環境や時間の中で簡単に失われていく命が多くあるという現実を知ると、とても悲しい気持ちになります。新聞やテレビを見ていると、毎日のように事故・事件・病気・戦争・自殺など人の命について報道されています。それを見て私はいつも守ることのできた命はたくさんあったんじゃないかとすごく思います。その中で周りの人が助けて救える命には限りがあるけれど、自分自身がたった一つしかない命の重さに気づき、自分

のことを大切にできる人が増えてけば周りの全ての人の命も同じように大切に決して傷つけてはいけません。すごく重くて尊い存在と当たり前な気持ちに気づき、それが多くの人の命を救うことにつながるというも思っています。私は妹の命の重さを知ったと同時に自分の命の尊さを知れました。

二度目は、五年生の時に行った立科で出会った動物の命です。酪農体験で聞いた「ここにいる動物たちは、人のために生きて、命を落としてくれる」という言葉です。その言葉がとてもショックで、色々な命について深く考えさせられるきっかけとなりました。今まで私たち人間は、当たり前のようにたくさんの命をもらいながら生きていたのだと気づき、目の前にいる大きなかわいい目をした牛をブラッシングしながら自分の気持ちと戦っていました。食べ物になっていく命の重さとその命を支えられて生きている自分の命の重さのちがいに気づいた瞬間自分の命は本当に大切に生きていかなければいけないし、自分だけの命で生きているんじゃないのだと基本的なことに気付かされました。

これから色々なことを経験していく中で、たくさん命について考えていかなければならない場面が出てくると思うけれど、まだ私が唯一経験したことのない大切な人との命の別れがきた時に、自分がどう感じてそれをどう乗り越えて生きていくのか、その時が私にとっての第三の真剣に命について考える瞬間になると思います。

中学生の部

★ ★
推進委員長賞

打ち明けてみてごらん

西巣鴨中学校
3年生

さとう あおぞら
佐藤 青空さん



皆さんは、人生の中で対人関係においてなにかトラブルを起こしたりしたことがありますか。

ある一つのきっかけで友達と亀裂が入ったり、悪い方向に向かうと無視や嫌がらせにつながったり大変なことになります。そこで私は様々なトラブルの中で「いじめ」について視点を置きます。いじめはいつおこるか分からない恐怖です。だけど、どうしていじめが始まるのか。それは人それぞれの理由があります。私はこんな経験をしました。

かつて、私は小学一年生から小学三年生の二年間いじめられました。しかし、私は友達に不快なことや迷惑をかけないようにしていました。

そんな私が、学校に登校したその日から苦痛の日々を送るとは思いも寄らなかったです。

毎日、色んな人から暴力を受けたり愚痴を言われたり、ひどいときは物がごみ箱に捨てられて、無くなったりしたことさえありました。また、家に帰るとお母さんとお父さんが喧嘩をしていて私はお父さんに叩かれることが多々ありました。そのときはいつもお母さんが泣きながら、「ごめんね。」とかすれた声で言いながら大きな体で私を抱きしめてくれました。そのぬくもりは今でも忘れられません。だけど家でも学校でもつらい日々が続くもう我慢の限界が来て何度も自殺しようと考えました。それからそのいじめが二年も続こうとしたとき、私は初めて泣きました。

自分が悪い、取り柄がないと勝手に自己嫌悪に陥りました。それでも、親に会うときは無理矢理でも作り笑顔をしようと心に誓いました。

そんなある日、あるニュースを見ました。小中学生でいじめを理由に自殺をしていることを知りびっくりしました。「私もこの中に入るんだろうな。」と心の中で思いながら自分の部屋に戻ろうとしたとき、ある言葉が印象に残りました。その言葉が、「みんなは生きている限り命はある。その命を大切にしろ。だって生きる価値

のない人間なんてないんだもの。」でした。聞いて号泣しました。

だけど、次の一言にもっと泣き出してしまいました。それがこの言葉でした。「打ち明けてみてごらん。」この一言が心を動かしてくれました。そして、お母さんが頭に浮かびました。お母さんに打ち明けてみよう。

それから勇気を出してお母さんのところに行きました。緊張はしたけど打ち明けてみたらお母さんが泣き崩れて「ごめんね。なにも気付けてあげられなくて。母親として失格ね。」と言いました。私も自然と涙が出てきました。

だけど、打ち明けることができ嬉しいのと、またお母さんを泣かせてしまった悲しみの両方の気持ちが重なりました。その後、先生と相談をして、その友達と話し合っって和解しました。そして、ここに引っ越してきたいまは友達と仲良くしています。仲良くなった友達も連絡したり、夏休みや冬休みに会って遊んだりしています。

このことを通して、思ったことが二つあります。一つは、いじめてる人は別の視点から見て物事を考えいじめをしているということ。

いじめられている人は、自分を責めないで。辛いことはあるけどこれからきつと楽しいから。乗り越えて人生は無駄じゃないから。自殺は絶対しないでください。

もう一つは、少しのことでも人に打ち明けてみる。一人で抱え込むとストレスや苦痛が積み重ねられ、自分がだめになります。

そうすると、自殺につながるのでも人に打ち明けてみましょう。そして、大人でも子供でも悩みは必ずあります。やがて、悩みがストレスに変わることだってあります。ストレスに変わるまえに打ち明けて、聞き手の人は聞くだけでもいいですが、あいづちなどしてあげてください。そして、「いじめ」を徐々に減らしていく必要があると思います。

小学生の部

2,245 作品

作文コンテスト 受賞作品

中学生の部

745 作品

★ ★ 常任委員長賞

あいさつで笑顔に。

富士見台小学校 6年生 あだち ゆめ 定立 侑女さん



私は以前地いきの人とは、ほとんどしゃべりませんでした。地いきの人としゃべったことは数回程です。地いきの人としゃべれるには、どうすればいいのか私は地いきの人に声をかけてもらうたびに私は考えていました。みなさんはどう考えますか。私は先日地いきの人と積極的に話してよかったと思う体験をしました。

私は友達を作るのが得意な方だと思います。最初は少しとまどう部分もあるけれど話したらすぐ仲良くなれるので、仲いい友達がたくさんできます。ですが地いきの人とはあまりしゃべりません。朝のあいさつの「おはようございます。」

でも声をかけられないので地いきの人とあうときは無言で通りすぎていました。がんばって話そうとしてもなかなか声をかけられずいつのまにか人がいなくなってしまっていることがよくありました。私の家の近くにはお店がたくさんあります。私の家も駐車場をやっていて特におばあちゃんは、いろんな人と関わりをもって地いきの人とも話するのが得意です。駐車代をはらいにきてくれた人と話しながら駐車代をもらったり、来てくれたお客さんともうまく話せます。他にもまわりにあるお店の人とも話するのが得意です。よく食べる料理屋の店主の方も話が上手で料理がおいしいのでとても人気のお店ですし、近くのたばこ屋さんの人もよくお客さんとしゃべっている姿を見かけるのでいつもすごいな思っていました。私がしゃべってみようというきっかけくれたのはよく遊んでいる友達でした。私がよく通る道にいつもきれいなバラをさかしているおうちがあるのですが私はいつもきれいだな思っていました。ある日友達と一緒に家にかえると中にバラを育てている人に会いました。その人はバラを切っていました。友達が「あの切ってしまったバラがほしいな。」と言いました。すると、一人の友達がバラを育てている人

声をかけました。友達ははいねいな言葉使いで「この切って地面におちているバラを少しもらっていいですか。」と聞くとその人は、「どうぞ、どうぞ。」と言ってバラをくれました。そしてなぜ切ってしまったのかという理由もとてもいいにおしえてくれました。私達がバラの花をひろっていると私達の近くを仲のいい老夫婦が「きれいなバラだね。」と言って通っていくのが聞こえました。私は、とてもいい気持ちになりました。帰ろうとした時に「きれいに咲いたところにまたおいで。少し切って分けてあげるよ。」と言ってくれました。私は地いきの人としゃべる大切さをその時学びました。大切さを知っても話すのはなかなかできませんでした。どう話せばいいのかなやんでいると、おばあちゃんの姿がうらびました。おばあちゃんは、地いきの人としゃべるときにだれもがわかる地いきの話題を出していたことを思い出しました。そんなことを考えていたら地いきの人としゃべれるような気がしてきました。次の時は私から積極的に声をかけていきたいと思います。私は社会を明るくするには地いきの人と声をかけあい、話していくことが大切だと気づきました。地いきの人達とかわりをもてば、こまった時に助けあえます。そして今回の事のように地いきの人達がいい気分になると自然と笑顔がふえ地いきが明るくなっていきます。話すのが苦手な人でもまわりにおてほんにできる人がいないか考えて、自分から積極的に話していくのが大切だと気づけるように、そんなきっかけを自分につくれるような、笑顔のあふれる地いきにしたいです。

★ ★ 優秀賞

スマホと利用者

駒込小学校 6年生 ほそかわ たい ち 細川 大智さん

ドン。「痛えな。」「邪魔だな。」と言われたり、舌打ちされたり。「悪いのはそっじゃないか。」と思ったりすることがあります。でも、さあ乗ろうという時に、スマホをいじりながら、のろろと歩いて降りて来る人がいます。ぼくはそんな人とぶつかった経験があり、先ほど言ったような理不尽なことを言われ、何も言い返せずに終わってしまうことがありました。その度にすごく嫌な気持ちになります。また、電車の中で、人の迷惑も考えず、せまいスペースですと指を動かしてゲームをしている人がいます。両手をはなしているため、電車がゆれた時に他の人にぶつかり、あやまりもせず、不快な思いをさせている人がいます。この二つの問題は、大きな事故や相手にけがをさせてしまうことも考えられます。この小さく見えて、大きな問題を解消できるのではないかと考えました。もちろん、人々の心がけによって、スマホによる問題がだんだんと減っていくのが一番良いですが、どんなに駅などの公共の場での放送などで呼びかけても減っていないのが現状なのです。なので機械、科学的手段を取るのも一つの方法だと思い、現実できるようなことを考えてみました。車にあるカーナビゲーションやテレビのように、

車が進んでいる時には、見られなくなるシステムもあります。そのような、システムをスマホに使えないでしょうか。歩き始めると自動的に作動しなくなるというアイデアはどうでしょうか。もう一つの問題点のスマホのゲームについては、「今、あなたは周りの人に迷惑をかけていませんか。」「今、本当にゲームをしなればいけない状況にありますか。」など、これも自動的にスマホに注意の配信をするのは良い手ではないでしょうか。そして、その忠告を受け入れたらポイントが入るという制度にすれば、ゲーム好きの人はポイントも好きだと思ったのでスマホのゲームによるトラブルは減少していくのではないかと思います。このように、大きなことをいきなり改善するのは難しいです。けれども、今のこのようなままの社会では人間としてとても悲しいことであり、スマホはせっかく便利なものであるのに人間が欠点を見つけてしまうことも、とても悲しいことです。だから、少しずつ、一人一人が心がけて明るい気持ちにしていく必要があるとぼくは考えました。そのため、現在、力を入れていくアナウンスなどをもっとも強化していく必要があると思います。また、ぼくたちが大人になったころには、このようなことが改善されていて、困ったり、気にすることのない社会になっていたら良いとぼくは思いました。そして、ぼくは周りの人から信頼してもらえる大人になり、その時の子どもたちが「こんな大人になりたい。」と思ってくれば、ずっとそれがくり返されて、とても長く、明るい社会にできると思います。

★ ★ 常任委員長賞

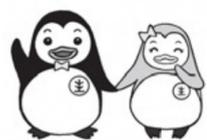
誰もが自信を持てる社会へ

駒込中学校 2年生 あきはた ひかる 秋畑 光さん



ペイ・フォワード。自分が受けた親切を、別の人へ贈っていくこと。何よりも「自分から先に」という意思が大切だ。ペイ・フォワードという言葉は映画のタイトルとしても使われている。映画の中で、この考え方は世界に広まり、心に傷を負った大人達の心を癒していく。また、あるホームレスは少年から温かい親切を受ける。その親切を別の人へ贈ろうとして、自殺を試みている人を助けたというエピソードも描かれている。一人が三人に、三人が九人に親切を贈る…。そうすれば、小さな一歩はやがて大きくなる。ところでつい最近、僕は「出所した人の再犯率が増加している。」とニュースで聞いた。再犯を起こしてしまう理由は何だろうか。まず再犯防止のために大切なのは仕事・住居・支える人と聞いた。しかし、今は彼らを受け入れるための社会の準備が充分ではないのが現状だ。更生し社会復帰を目指している人が冷たい現実と直面したら、居場所をなくし自暴自棄になってしまう。しかしこの悪循環を良い循環に変えることはできると思う。まずは僕達が、誰でも自信を持って生きていける社会を創り出すことだ。そうすれば再犯を防ぐことができるだけでなく、治安も良くなり誰もが安心して暮らしていける社会が実現できる。自らが先に行動し、彼らに親切を受け渡し、彼らはその親切を誰かに贈っていく…。すなわちペイ・フォワードできる環境が、良い未来を創造すると僕は信じている。僕は「再犯防止のために大切なもの」の一つである「支える人」に興味を持った。それが保護司という仕事である。罪を犯した人の改善及び更生を助けるのが主な仕事だ。僕が調べたある保護司の方は、対象者を絶対に孤独にさせないという強い思いがあり、それによって再犯も再非行も防いでいけると確信しているそうだ。僕は人のためにここまで

動くことができるこの保護司の信念と行動力に感動した。このように社会復帰に協力する仕事があることを知ったと同時に、この仕事の人手不足問題も知ることができた。保護司の数は平成二十二年以降、六年連続で減少している。さらに、急速な高齢化も進んでいるそうだ。皆と同じが良いとする日本人の考え方は、世界的に評価されている一方で、罪を犯した人への偏見が強いという側面もある。しかし、僕は過去だけに着目せず、今の姿を信じる社会であってほしいと思う。僕は今回をきっかけに、再犯のいさつや保護司の仕事に興味を持つ、知る、理解する、感動する、という行動をしたことで、もう偏見を持つことはないだろう。それは僕自身だけでなく、社会全体にも感じてほしい。また、社会に出ても受け入れられえない冷たい世の中で、自分の居場所を失い、話してくれる人も誰もいない四面楚歌の状況で、再犯を起こしてしまう人の気持ちを少し理解することも大切だと思う。更生し、社会復帰を目指している人は、どんな社会を望むだろう。僕は、罪を犯してしまった人に直接関われなくても、その人の居心地の良い社会創りに関することはできると思う。そうすれば、自然と社会が明るくなるはずだ。どんなに小さなことでも、多くの人が行動すれば未来への影響力はとても大きくなる。そう、それが「ペイ・フォワード」。僕の理想の未来。



★ ★ 優秀賞

あいさつは魔法の力

西池袋中学校 2年生 とみた る い 富田 留衣さん



「あいさつには魔法の力がある」私はそう教えてもらいました。そこで、その魔法をかけられるようになりたいと思いました。そんな私にとって印象に残る三つの出来事がありました。一つ目は、歌です。私は小学生のとき、「あいさつは魔法の力」という歌を習いました。そのとき、音楽の先生は「あいさつには魔法の力があるんだよ。だから勇気を出しているいろんな人にあいさつをすると、魔法がかかって楽しく過ごせるんだよ。」と言ってました。かっこ良く話してくれた先生のあいさつはハキハキしていて、とてもあこがれました。二つ目は、バスケのコーチです。私が入っていたバスケチームのコーチは「あいさつ、お礼、返事ができないと人間とはいわない。」というのが口ぐせです。私にバスケの技術だけでなく、あいさつの大切さと、どう生活したらいいかなども教えてくれました。そのコーチは、他のチームの人からの信頼も厚く、深いおじぎのあいさつをしていて、自慢のコーチです。三つ目は中学校の先輩方です。私は中学校に入って、先輩方のあいさつに驚きました。顔見知り程度の話したことのない先輩が廊下で、「こんにちは。」と言ってくれました。一歳しか違わないのにどう

してこんなにカッコ良く見えるのだろうかと思いました。笑顔で嬉しくなるようなあいさつができるようになりたいと思いました。この三つの出来事があった、あいさつは社会を明るくする、あいさつで自分も相手も良い気持ちになるという事を学びました。そして、たくさんの人に魔法をかけたいと思い、何から始めたらいいか考えてみました。第一にあいさつを変える必要があると考えました。ハキハキと、しっかりおじぎをして、笑顔も忘れずに、相手に嬉しいと思ってもらえるようなあいさつをしたいです。そんなワンランク上のあいさつができるようになると、自分から家族や親戚、クラスメートや部活の先輩、後輩に、そこから友達との友達の部活の試合で他の学校へどんどん広がって行って、嬉しい言葉、あいさつがとびかう明るい社会になるのではないのでしょうか。思っているだけでは何も変わりません。実行しないといけません。「ちょっと勇気がいるけれど思いきって声を出してみよう」という歌の通り、「少しの勇氣」を大切に、自分のできる事から実行していき、「あいさつの魔法」をかけられる人になりたいです。



★ ★ 優秀賞

いじめられる側もする側も

南池袋小学校 6年生 びる まち あや か 美留町 彩日さん

他人から悪口を言われる、暴力を受ける、避けられるということは、全ていじめで、犯罪です。しかし、いじている人は、きっと自分でも辛いのではないのでしょうか。「相手は、動きがおそいからいじめ。」「弱いし、自分と違うからいじめ。」と言う人がいます。確かに、自分の苦手としている人もいると思います。でも、その人には、良いところだってたくさんあります。悪いところだけ見ないで良いところを見つけることが「人間」としての仕事なのだと思います。いじめている人に対して、「気持ちがあると思います。だから、「もし自分がいじめられたら」と怖くていじめをしていても、きっと辛いのだと思います。私は、いじめを受ける人もいじめをする人も大切にしてほしいです。いじめや差別なんかしていないで、人の良いところを見つけられれば、誰も損なんてしません。少し苦手な人がいたら、その人に直接言うことはできなくても、まずはその人の良いところを見つける、ということをしてほしいです。これは、いじめを受ける人といじめをする人の人権を守り、いじめを無くすことにつながります。では、私たちには、何ができるのでしょうか。例えば、いじめを見つけて止めに行くことです。いじめを見つけたら近くの大人や友達に相談することが大切です。また、路上生活者を差別、特別扱いしないこともそうです。弱くても、みなさんと同じ人間です。このように、人を差別しない、差別を許さない、ということを心がけてほしいです。差別を無くす努力は、色にも関係しています。肌色という色は、今では「パールオレンジ」と呼ばれています。これは、黒人と私たちの差別を無くすため

です。世界中の肌の色は一つだけではありません。クラスでも、生活の中でも、このように努力することが必要だと思います。私が、本で読んだ言葉に、「相手がいじめられていると感じたら、それはいじめだ。」というものがありました。最初は、他の人から見ていじめかどうかが決まると思っていたので少し疑問に思いました。しかし、私はそれを実体験をしたので、意味が分かるようになりました。班で給食を食べていると、その時は楽しく話していました。しかし、ある一人の子が急に泣き出してしまったのです。どうしたのか理由を聞くと、「自分に変なあだ名を付けないでほしい。」と言っていました。そのあだ名で呼んでた人は、まさか嫌な気持ちになるとは思っていなかったようで、とても困っていました。このように、「相手にとっらいじめ」ということがあります。なので、このような細かいところにも気を使うことが大切です。なのでこれからは、人の良いところを見つけられて、いじめをしている人がいたら積極的に止める人になれるよう頑張ります。さらに、「自分にとっては軽い気持ちだけれど相手にとってはいじめ」が起こらないために細かいところに気を配れるようになってほしいです。これを世界中の人ができれば、いじめはかなり減ると思います。これらの事を活かして、私は絶対にいじめをしない、見かけたら親や先生たちに言うようにします。全員がこれをできれば、いじめや差別は無くなります。

★ ★ 優秀賞

「他の国の人を受け入れる」

池袋中学校 2年生 かなざし こう た 金指 功汰さん



「他の国の人を受け入れる」ということは他文化を理解し、コミュニケーションをとることだと思う。僕が一年生の時、ネパールから来た人が同じクラスにやって来た。その人は、日本語を話すことができなかったで誰の力も借りずに楽しく過ごしていくことは極めて難しかった。僕は、その人に積極的に話しかけた。なぜなら、僕は友達を作るのが大好きだし、その人が少しでも楽しく学校生活を送って欲しいと思ったからだ。最初は、自分の知らない人が多いことに緊張していた。また、誰かに心を開くことができなかったし、恥ずかしいという思いが強かった。僕は、四年生の時にドイツに行ったことがある。ドイツのデュッセルドルフという日本人が多く住んでいる町だった。デュッセルドルフではサッカーのスクールや学校に通った。ドイツ語は分からなかったが、ジェスチャーでなんとかなるだろうと思っていた。言葉が分からなくても大丈夫だろうと、甘い考えをしていたのだ。実際、そんな甘くはなかった。ジェスチャーで少しは理解することができたが、一人で楽しく過ごすことはとうていできなかった。しかし、現地に住んでいる日本人がやさしく助けてくれた。先生やコーチが教えてくれることを日本語で伝えてくれたり、僕をいじめてくるドイツ人から僕を守ってくれたり、大変お世話になった。そこで、僕は自分のことを理解してくれる人がどれだけ重要かを知った。その経験を生かし、まずは学校のことについて丁寧に教えてあげた。例えば、学校の規則や教室の場所、先生の紹介などだ。英語でコミュニケーションをと



小学生の部

★ ★
優秀賞

笑顔は自分から

長崎小学校 4年生
きくち りん
菊池 凜音さん



私は、どうして「いじめ」「一人ぼっち」などの場が暗くなるような事をする人が多数いるのか。そしてその人はどのような人なのかを考えてみた。まず、頭の中で思いついたのは、いじめ、一人ぼっち。これは、一人の事を何人かできずつけるというこい。されたがわの気持ちを考えると、一生のこる思い出になってしまうと思う。それだけではなく心にきずがつく。次に、さべつ。さべつは、自分とちがう体、はだの色をくらべて、その人の事を悪く言う。言われたがわは、とても悲しむと思うし、自分のふつうをひかくされたら深くきずがつく。このような、相手の気持ちを考えずに、行動、発言をする人は他人に笑顔を咲かせられない人だと思ふ。そのためには、まわりの人が自分から笑顔を発信し、サポートしてあげることだと思ふ。

もし、この世界が笑顔であふれていたら、「いじめ」、「一人ぼっち」、「さべつ」はなくなると思う。実さいに学校では、しょうがいがある子もいる。はだの色もそれぞれちがう。だけどその子たちはいつ見ても、笑顔であふれている。この一人一人の笑顔が社会を明るくする、第一歩だと思ふ。なぜなら、「笑顔」は世界きょうつうの、あい言葉のような物だから。だから笑顔一つ一つが大切。そして、一人が幸せそうにほほえむとみんなが幸せそうに答える。そう、笑顔一つでかんきょうがよくなる。

私はこのように考えた。私はもっと友達をふやしたい。そのためには自分みず

から何をすればいいのか。その時「パッ。」と頭の中にかんだ二つの文字と同時にクラスみんながほほえんでいるすがたが見えた。私はようやく分かった。「笑顔は自分から」ということを。

「笑顔」というまほうのあい言葉をせっきょくてきに、発信していけば、男女、ろう若問わず、仲よくなり、自分自身が明るく、輝ける未来になれる。この事をきに、他の学校、学年、クラスの子たちと友達になれるきっかけができる。私はあらためて、人々の笑顔の力に助けられる事をほこりに思つた。

笑顔、親切、優しさは「いじめ」「一人ぼっち」「さべつ」に深くかかわりがある事を、自分のまわりの人達が気付かせてくれた。

また私も、いじめるがわの人たちに、笑顔の大切さを伝えていき、この社会がより良くなるために毎日笑顔でいる自分に変わっていきたい。

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開さいする。その時には多くの外国人かんこう客が来る。外国人の人々に、日本は笑顔と優しさであふれている国と思われるように、日々笑顔、優しさを心がけ、少しでも良い国に近づけるように、笑顔を発信するのを忘れずにしていくことが、社会を明るくする第一歩になると思ふ。

なので、人々に笑顔を広めていきたく私は強く思ふ。

★ ★
優秀賞

命の大切さ

千早小学校 6年生
ひらき まい
平木 舞さん



みなさんは、自分にとってかけがいのない人を亡くしたことはありますか。私は今年の五月に祖母を亡くしました。祖母は、いつでも私のことを大切に思ってくれていて、家族の中で一番といえるくらい大好きでかけがいのない存在でした。

そんな祖母がある日突然、体調をくずし入院しました。いろいろな検査を受けて出た診断結果は、胃がんのステージⅣでした。最初は、「ステージⅣ」の意味が分かりませんでした。これはその病気の末期の状態を意味するそうです。正直、信じられませんでした。今まで一緒に遊んでいた元気な祖母を思いうかべると、私の前には無理をしていたんじゃないかと思ひ、目から涙があふれてきました。それから数日間は立ち直れませんでした。家族や友達からはげまされ、前向きに考え直すことができました。

私は、祖母が入院している間は、毎日メールをすることにしました。学校や習い事の話したり、私が小さいころのことを教えてもらったりしました。そんなメールのやりとりをしていると、祖母が私のとなりにいるような気がして、それが一日の楽しみになっていました。

そして、祖母のがんが悪化し始めて病院の先生に余命が残りわずかだと告げられたころ、私は祖母にまたメールを送りました。今まで私は、うまくいかないことがあったとき必ず祖母にはげましてもらっていました。このメールは、今までの恩返しができる最後のチャンスだと思って送ったはげましのメールでした。これが、私と祖母の最後のメールになりました。

その日の夜に病院から、祖母の病状の悪化の報告があり、父と母がいそいで病院に行きました。でも私は、祖母のところへ行くのがわくて、行くことができませんでした。父たちは、家を出てから五時間が経った朝の六時半

ごろ帰ってきました。そして父が、葬式の準備の話をしたり、母が学校に欠席の連らくをしたりしているのを見て、悲しいより先に、「やっばり」という気持ちになりました。

そして、祖母の死に実感がわかないまま、祖母が住んでいた家がある、熊本県へ行き、その日のお通夜、翌日に告別式が執り行われました。その葬儀にあたっては、たくさんの方々で祖母とのお別れに来て下さいました。それを見て、祖母が、たくさんの人に支えられ、その人たちを支えて生きていたんだと思ひ、改めて命の尊さを感じました。その尊い命つまり、命の大切さを実感したことが、たくさんの人々の命を救う、医者になりたいという目標につながりました。

この経験を通して、私は二つのことを学びました。

一つ目は、私はたくさんの人々に支えられて生きているということです。家族だけでなく友達や、学校、習い事の先生など、毎日接していない人々にも支えてもらっているので、感謝を忘れずに生きていこうと思ひます。

二つ目は、一つ一つの命の大切さを忘れないということです。今まで私は、相手をきずつけるようなことをしたことが何度もありました。でも、今回の経験から、この世に必要な命など一つもないんだということを感じました。だから私は、もう人をきずつけるようなことをしたくないと思ひます。そして、このことを一人一人が理解し、「いじめ」や「犯罪」という言葉がこの世界からなくなってほしいと思ひました。

この、祖母の死は、私に改めて、「命」について考えさせてくれました。そして、「医者」という夢をくれました。

今回、祖母の治りようにたずさわって下さった病院の先生のように、たくさんの人を笑顔にできる医者になりたいです。

中学生の部

★ ★
優秀賞

受け入れること

明豊中学校 3年生
たなか ちづる
田中 千鶴さん



「日本に帰りたいよ…」

父の転勤で急遽アメリカに引越して1ヶ月目。最初の数週間は見慣れないもの、文化、言葉、全てが新しく期待に胸を膨らませていた私も1ヶ月も経つころには地元である日本に帰りたい気持ちの方が大きくなっていました。英語が上手くなりたいからと自ら希望して編入した現地校でもやはり言語の壁というのは高く、分厚く、小学校で少し習った程度の私の英語力では到底太刀打ち出来ないものでした。また、初対面の人と話すじりじりする緊張感とタブレットの翻訳アプリの画面越しでしか自由に話せない歯痒さも相俟って、友達を作りたくても作れない状態でした。

しかしそんなある日、いつものように現地校で一人で日本語の本を読んでいると、突然「私の、名前は、カレンです。私は、あなたと友達に、なりたい。」

と一人のクラスメイトが日本語で話しかけてくれたのです。英語しかない環境での彼女のいきなりの拙いけれど、意思の強い言葉に、私はとても衝撃を受けました。と同時に、恥ずかしくもなりました。彼女は私と友達になるために日本語を覚えて自分から勇気を出して話しかけてくれたのに。私は、「間違えたら恥ずかしいから。どうせ伝わらない。」と諦めて新しい人とコミュニケーションを取るのを躊躇っていたのではないかと。そう思った私は「うん、もちろん。」と自然に答えていました。

彼女と出会ったその日から、私は、翻

訳アプリを極力使わないようにしてごちないながらも英語を使って周りの人と話し始めました。間違えても大丈夫。諦めないことが大事なんだ。そう思えるようになりました。また、今まで興味や関心を持っていなかった他国の文化も率先して吸収しようという気持ちが大きくなりました。

ある時、授業で自分の出身国について写真を貼ったりして一つの箱にまとめて発表し合うという課題がありました。私は日本のアニメやアイドル、ゲームや食文化など様々なことを発表しました。授業が終わった後、周りの友達が「千鶴の発表すごく良かった。日本はとても面白いね。」

と言っていたのを今でも鮮明に覚えています。そのとき、発表を褒められたことよりも日本について興味を持ってもらえたことが何より嬉しかったです。

自分の国について学び、共有し、交流し合う。日本だけでなく世界規模で社会を変えるには互いの文化を認め合い、変化から逃げずに、下手でも躊躇せずに発信していくことだと思います。グローバルな社会を目指していきたくです。



表彰式(中学生の部)



ジャズ研究会



雅楽倶楽部

“社会を明るくする運動”にご協力頂いている団体(50音順)

- | | | |
|-------|--------------------|---------------|
| 寄 附 金 | 一般社団法人 巢鴨庚申堂奉賛会 | 宗教法人 眞性寺 |
| | 株式会社 アール・エス・シー | 宗教法人 法明寺 |
| | 株式会社 サンシャインシティ | 東京商工会議所豊島支部 |
| | 株式会社 鈴和 | 東京信用金庫 |
| | 株式会社 藤久不動産 | 東京豊島西ライオンズクラブ |
| | 株式会社 東武百貨店池袋店 | 豊島区商店街連合会 |
| 寄 贈 | 宗教法人 高岩寺 | 豊島区町会連合会 |
| | 宗教法人 西福寺 | 豊島区保護観察協会 |
| | 宗教法人 祥雲寺 | |
| | 巢鴨信用金庫 | 東京信用金庫 |
| | 東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会 | |